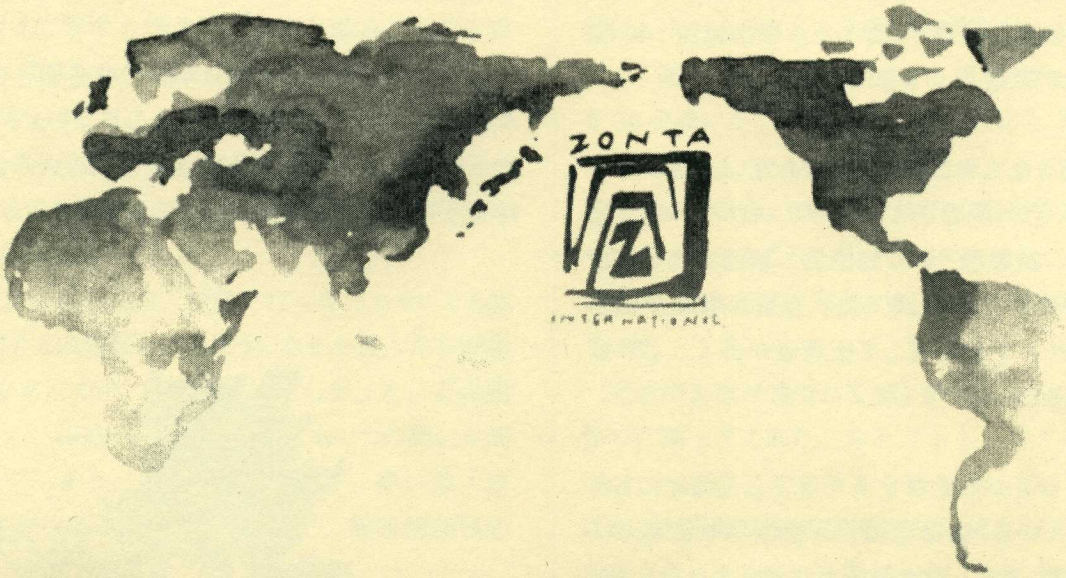
OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪Ⅱゾンタクラブ第28号（2009年9月）



巻頭言

ご挨拶

新会長（2009～2011）　**西村　博子**

大阪Ⅱゾンタクラブは、その活動も17年目を迎え、6月に新役員・理事が誕生いたしました。今期から久岡眞佐代さんの後任として、第9代目の会長の大役をお引き受けすることになり、少々緊張しています。「すべてのものには時がある」・・・・その言葉のようにその時がきたことを真摯に受け止めながらも、ゾンタライフを皆さまと一緒に楽しみたいと念願しています。

ゾンタクラブの活動目標は、やはり女性の地位向上と世界平和推進のための奉仕活動です。国際ゾンタの目標、地区やエリアの目標に沿って、今期もそれらに根ざした奉仕活動を展開していきましょう。

クラブの奉仕活動には創立以来続けています継続事業、創立10年目に見直したもの、また新たに始めた活動があります。大阪市ゆとりとみどりの振興、大阪府女性基金、財団法人フォスタープラン協会への奉仕寄付は創立以来の継続事業です。現在は国際奉仕として、国際ゾンタを通じての寄付のほか、FUJI教育基金（ベトナム）、ネパールの子どもを育てる会への寄付があります。国内奉仕には社会福祉法人関西いのちの電話やいこま福祉会への寄付、そして会員による銭太鼓やハーモニカを演奏しての福祉施設への訪問奉仕もしています。最近ではハンドベルの練習も始めました。

創立以来毎年行っていますチャリティーイベントは、会員の力を結集して、毎回見事な盛会です。今期もチャリティーイベントを来年5月に計画します。また恒例の女性と健康講座や卓話を通じての活動も、見直しと協議をしながら進めていきましょう。今年は寄付先の活動を理解するためのもの、また会員のご専門による卓話を予定しています。委員会にも卓話をお願いします。今期は、それぞれの委員会活動がすすめられますよう、各委員会でご協議下さい。

こうした活動が展開できますのは、会員の皆さまの大きなエネルギーです。大阪Ⅱゾンタクラブの魅力は、やはり持ち前のパワー、若さ、明るさ、柔軟さですね！このエネルギーを活用して、無理なく自然体で、奉仕活動の奥行きと幅を拡げていければ嬉しいですね。

今まで培ってきたものを大切にしながら、新しい息吹きをいれて、楽しい有意義な活動を展開していくために、ご多忙な日常の日々ですが、会員おひとりおひとりのご参加、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。大阪Ⅱゾンタクラブのさらなる奉仕活動の展開と友情の輪を広げるために！

2009年5月例会

26地区エリア3第1回エリアミーティング

報告

久岡　眞佐代

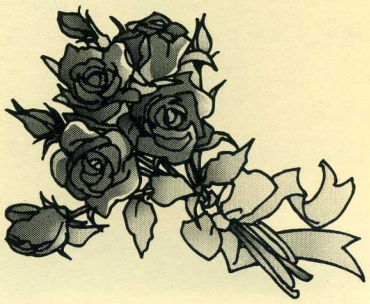
2009年4月18日(土)～19日(日)大阪国際会議場で、26地区が4分割となって最初のエリアミーティング、そして私が会長として参加する最後のエリアミーティングと会長会議が開催されました。参加総数140名余り、当クラブから12名が参加しました。

「エリアが小さくなったことの利点はお互いに話し合ってできること」という行岡陽子エリアディレクターの力強い挨拶で始まり、終始穏やかな勉強会、親睦会という雰囲気で有意義な時間を過ごしました。当日は春風が心地よい好天に恵まれ、予想に反して出席者が多く、これもエリア分割の利点だと思いました。

ビジネスセッションの主なテーマは、ここ何年にもわたって議論されている「会員増強」、「女性の地位向上に貢献する奉仕活動」です。山本蒔子ガバナーより「ゾンタ活動でいろいろなことを学ぶことができますが、その活動を支えていくには会員増強が不可欠です」という趣旨の講評がありました。

当クラブは力及ばず私の任期中に入会者はありませんでしたが、次の西村博子会長に期待を込めてバトンタッチしたいと思います。

あっという間に過ぎた2年間の会長職、少しでもゾンタのためにお役に立てたかどうか心許ないところですが、本業とは全く違う緊張感と刺激を受けながら、とても良い時間を過ごすことができたと思っています。



講演会報告

笠置　伸子

2009年4月19日(日)、大阪国際会議場にてエリア3第一回エリアミーティングを開催。基調講演に比叡山大阿闍梨・酒井雄哉様を招き、「歩いて生きる　私の道」と題して講演をして頂く。

酒井師は1926年大阪生まれの天台宗僧侶。54歳の時に千日回峰行に出峰。
千日回峰行とは、約7年間をかけて比叡山中を1000日間回峰巡拝する修行法。「行を挫折した時には自害する」と言う覚悟の上、白装束を着て修行する。
初年から3年間は深夜から朝にかけて1日に30～40キロの道程を1年の間に100日間歩く。4年・5年目は毎年200日、計700日を回峰する。7年間歩く行程は延べ4万キロ、地球一周分に相当する。700日の回峰行を終えると不動堂に9日間籠り、断食・断水・不眠・不臥で不動明王の真言を10万回唱える「堂入り」という行が課せられる。
終盤になると瞳孔が開き、死臭が漂うと言われるほど非常に過酷なものだ。この7年間の苦行に挑み満行を果たし、更には半年後に二度目の千日回峰を断行。過去400年に2回達成した方は二人しかいない。酒井師はこの偉業をなし遂げた歴史に残る佛行者である。

酒井師が千日回峰で学んだ事とは、
◎人間は基本的に生まれた時から歩くという事をする動物。右足を出して息を吸う、左を出して息を吐く、という身体の動きと呼吸をする事で自然に気功を取入れている。
◎詰まらない事に振回されずに生きると病気はしない。
◎自然から学ぶ事は、生まれた時から自立する事を身に付ける。
◎公私を分けて考える事が出来るのが人間なのに、公私を分ける事が出来ない人間が多い。
◎詰まらない事・過去の話をしてもどうにもならない。
◎机の上で学ぶ事より、行動をして自分が実行する事で学ぶ。
◎歩く事を実践する。実践が乏しいと満足な答が出ないと実感。

2回目の回峰行を終え最終的に思った事とは、
◎今日は今日で終わり。明日はまた生まれ変わる。
◎『動と静』は『生と死』で、これを毎日繰返す。その日一日の人生は朝から始まり夜に終わる。そして今ここに在る。
◎今しかない自分の姿を自然に在りのまま捉えて、命の続く限り本当の自分の人生を生きる事。
と話して下さった。

1時間の講演中、お疲れを見せられる事もなく立ち続けてお話をして下さり、実に爽やかな時の流れだった。いつまでもお健やかにお過ごし下さる事を心よりお祈り致します。

ワークショップⅠ

中塚　淳子

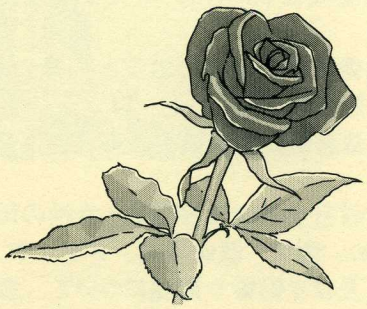
2009年4月18日大阪国際会議場において、国際ゾンタ26地区エリア3の第1回エリアミーティングが行われました。14時から15時迄「これからのゾンタ活動について」のテーマでコーヒーブレークをはさんでワークショップⅠ、Ⅱが行われました。ワークショップⅠでは4名の方々の貴重な資料と共に貴重なお話を聞かせていただきました。2006年から2008年の間に国際奉仕プロジェクトに対する寄付が合計で約5万8千ドルに達しており、今後2008年から2010年に向け、さらなる奉仕の実践につなげていきたいと述べられておりました。

ルワンダにおけるHIV問題、グアテマラ及びサルバドルの女性安全推進活動、母親と新生児の健康を守る活動等々、微力乍ら苦しむ人々のお力にならせていただきたいと心より念じておりました。又、会員増強については1000人突破を目指して「その気、やる気、元気、活気」を合い言葉に各クラブで目標を持って努力していきたいとの言葉があり、「ゾンタが何をしてくれるのか？」ではなく、「ゾンタに自分は何が出来るのか？」を問いかけられ強く感銘を受けました。

コンピュータ利用の功罪については、ITの活用が多くなり、メリット、デメリットの問題が生じ、スパム対策として役員改選ごとにアドレスの一部に年号の下2桁を付け加える等の提案をされていました。

バイローズについては、各クラブであらためてバイローズを見直す機会をと提唱されました。新クラブ設立時の20名を25名に変更、全体の4分の1以上の職種者が必要、寄付についても収益金の3分の1以上を国際奉仕にさせていただく重要性と、バイローズの改正が持ち出せるような人材を日本から出せるようにバイローズを熟知していただきたいとのお話でした。

ゾンシャンの一員として今後の活動に、クラブの皆様方と共に邁進して参りたいと思います。チャーターメンバーでありながら何の活躍も出来ず申し訳なく思っております。私は私の出来る所より頑張って参りたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



ワークショップⅡ

田中　茂美

ワークショップⅡは日本におけるゾンタクラブ設立から現在に至るまで、ゾンタと共に歩んで来られ、熟知された3人の大先輩のご講演を頂戴いたしました。簡略にポイントをご報告いたします。

1. ゾンタの会議の持ち方とロバート法;26地区パーラメンタリアン 大賀恵美子様

バイローズは組織を円滑に動かすための「きまり」でありバイローズでどのような会議をするのかについての説明をされました。

(1)組織と会議:国際会議が2年に1回あり、エリアミーティングはトレーニングセミナーと定義づけられている。2006年メルボルン大会において26地区でエリア費を徴収できることとなり、エリアミーティングが開催可能となった。デリゲート、プロキシティブも可能になった。

(2)リーダーに求められる条件:リーダーはワンマンではいけない。公平に各人の意見をきき少数の反対意見を無視してはならない。リーダーは感情コントロールが可能で中立的立場をとり、聞き上手で問題の核心が汲み取れる人でなければならない。また、自己利益より公の利益を優先し、会議の運営が出来る人が望ましい。更に、多くの人々から選出され、自分の精通していない点について周囲の意見を聞き、絶えず成長していく人でなければならない。

(3)会議法(ロバート法):パーラメンタリアンは会議運営法でありバイローズに従い行われる。地区やクラブでは所属する国の運営法になじむ方法であるべき。日本では国会の会議法(国会議事法)に準ずる。例えば、動議を出す時は、30人～50人以上の署名が必要であり、無いものは民主的とは判断されない。会議には議長が必要でクラブ会長が議長となる。地区大会・国際会議では任命されたパーラメンタリアンが会長の側に座り、会議を運営する。パーラメンタリアンは会議の進行をうまく整理して目的を果たせるようにする。議長のアドバイザーとなり、議長の相談があった時のみ意見を述べる。

2. 立法意識支援委員会(LAA)について;国際ゾンタLAA委員　原菊子様

立法意識支援委員会は女性の地位と人権に係わりながら奉仕することを目的としている。ロッテルダム大会で奉仕委員会が立法意識支援委員会と奉仕委員会の2つに分かれた。

(1)公的あるいは社会的な支援活動:女性の地位向上と人権保護のため、国連、政府機関、メディア、教育に、女性の地位に及ぼす影響や問題について、意見の掲示や記事の掲載、プレゼン、広報を行い、女性問題への意識改革を推進すること。例として、アメリア・イアハートにおける女性航空パイロットの育成基金、女性シェルターへの寄付等がある。

(2)支援の定義および方針:国際ゾンタおよびその地区・クラブは女性の法的、政治的、経済的、教育的、健康的、教育的などあらゆる面で地位向上をめざし、ビジネス、専門分野において国際的交友関係及び理解、誠心と平和向上を行う。支援の方針として2000年のミーティングで制定された内容は、ゾンタはどの宗派、党派にも属さず第4回国際女性大会の北京宣言を支持し、同じ目的を持つ団体、個人とパートナーシップを築き、協力する。ゾンタは人権侵害についての異議申し立てを国際ゾンタ国連委員会に表明できる。

3. 国際ゾンタ並びに国際ゾンタ財団活動;国際ゾンタ財団理事　針生峰子様

国際ゾンタは奉仕と支持を通して地球レベル、地域レベルで女性の法的、政治的、経済的、教育的、健康的、職業的地位の向上を目的とし、国連やNGOなどと共同プロジェクトを組んで活動している。

(1) 2008～2010年は国際奉仕基金として3つのプロジェクトが進められている。

1) 年間約3500人の女性が誘拐、殺害、強姦され傷害を残す状態のグアテマラ市及びサン・サルバトール市を女性にとって安全な町にする。
2) 直腸、膣瘻は全世界で数百万の女性に悲惨な生活を強いており、リベリアに於ける母親と新生児の保健プログラムとして医師の訓練と手術を受けられるよう支援し、経済的自立を促す。
3) ルワンダにおけるHIVの母子感染の予防。子供のHIVの90%は母子感染で、エイズ孤児の支援を行う。HIV防止のための健康教育、栄養支援、精神的支援を行う。

(2) ZISVAW Project(国際ゾンタによる女性と児童に対する暴力廃絶運動)の2008～2010年のプロジェクトは、カンボジア、エジプト、シリアにおける女性に対する暴力廃絶とシェルターの支援。

(3)教育・リーダーシップ開発プログラム奨学金:アメリア・イアハート奨学金(大学院で航空関連の技術、科学専攻の女性)、ジェーン・クラウスマン奨学金(大学で経済学を学ぶ女性)、YWPA奨学金(社会奉仕の実績を持つ16～20歳の女子学生)。

(4)その他:ローズ基金(奉仕活動プログラムの開発や援助)、WHPPI(本部の建物の保存と修理)、Endowment基本財産(ゾンタ創立100周年を目指し、2018年までに基本財産1000万ドル目標)。

全体に寄付活動、基金の財政は低調です。本部ビルの移転に伴う出費と労力がかかりました。

明石への移動例会

河村　さと子

4月12日（日）、日頃の精進よろしく快晴のもと明石への移動例会をしました。

大阪方面より新快速電車で西下、車窓より瀬戸内海、淡路島、明石大橋、須磨、塩屋の景色をたっぷりと楽しみ明石公園に到着。

桜はすでに3月中に満開のところが多かったのにもかかわらず、公園内の桜はちょうど見頃で一同大満足でした。

桜見物の後、源氏物語ゆかりの明石市内見物に繰り出し、朝顔光明寺では池に映った月を眺め楽しんだという光源氏に一同思いを馳せました。

その後関西有数の市場である魚の棚でのショッピングを楽しみ、活ふぐ料理屋「ふぐ元」にて夕食をとり、充実した一日に一同日頃の疲れをとることができ、ゾンタクラブの未来を語りつつ有意義な4月の移動例会でした。

県立明石公園：明石城跡である明石公園は野球場などのスポーツ施設や自然がいっぱいの市民の憩いの公園です。東西にある櫓は、国の重要文化財に指定されています。

朝顔光明寺：正式名称は、浄土真宗大谷派月池山光明寺。通称の由来は、光源氏が境内の月見の池に映る月を見て詠んだ歌にあります。池のほとりには、「光源氏古跡光源氏月見の池」の碑が建てられています。

魚の棚：魚の町明石の顔。地元の人が「うおんたな」と呼ぶ魚の棚商店街には、魚屋を中心に練り製品や塩乾物などの店が100件余り。昼12時過ぎの魚の棚は昼市で競り落とされた魚が、店頭にずらりと並んでいます。これが、「明石のひる網」で取れた新鮮な魚です。

明石公園にて

西川香代と愉快な仲間たち

牛田　三千子

2009年5月30日(土)、オープンされたばかりの逸翁美術館マグノリアホールで、15回目のチャリティーコンサートが開かれました。このホールは逸翁美術館の移設に伴い、新たに設けられたコンサートホールで、音響効果も素晴らしく、100席余りのこじんまりした木目調のホールは、何かに包み込まれるような落ち着きを感じます。

メンバーの河村さと子さんが、このマグノリアホールの計画段階から参画されたことから、今回のイベントの会場として使わせていただくことになりました。

「西川香代と愉快な仲間たち」と題されたこのアンサンブルは、京都芸大の卒業生3人の気の合ったトリオです。クラリネットの西川さん、コントラバスの平田さん、ピアノの五嶋さんは、たびたび一緒に演奏されており、3人が集まって練習する機会はそれほどなかったとお聞きしましたが、呼吸のあった素晴らしい演奏を聴かせていただきました。

5月の連休から、新型インフルエンザの騒ぎがおこり、神戸・大阪の感染者報道から、催しものが自粛される動きの中、このイベントも果たして無事にできるだろうか、お客様は来てくださるだろうか、と心配していました。しかし幸い一週間ほど前からは、休校していた学校も再開し、一同総マスクの異常事態もほぼ解消されてほっとしました。ただ当日は雨の予報はなかったにもかかわらず、お客様が来場される4時すぎから急に雨が降り、一時的な雨でしたが、濡れたかたも多かったようです。そうした中でも、予定通り100名近い入場者をお迎えできたのは嬉しいことでした。

コンサートの前後には、木の香も新しいマグノリアホールの周辺を散歩したり、併設のレストランでお茶を飲んだり、またアメリカから運ばれた120年前のスタインウエイのピアノを見学したりと、来場者も私たちも実に贅沢な時間を持つことができました。

実は、西川香代さんは、私の「アラ還の手習い」で、3年前からクラリネットの手ほどきを受けている先生です。こういう若くて才能ある音楽家を応援するというのもゾンタの使命のひとつですので、これからもこういう企画を持ち、音楽ファンのすそ野が広がればと思っています。

『リゴレット』やブラームスの『クラリネット三重奏』などのクラシック音楽を堪能した後は、演奏者も交えて近くの「薪窯焼きナポリピッツアの店」でピザやパスタをお腹いっぱいいただき、幸せな春の夜を過ごしました。

雑感　～衣替えの季節に思う～

幡山　玲子

曇り空の下あじさいの花が気分を明るくさせてくれる６月は、衣替えの季節でもある。

５月連休中に夏冬の衣服の入替えができていればいいのだが、急な暑さに背中を押され、暑さと競争しながら衣替えをするのが常である。今年も6月の終わりになってやっと入替えが完了した。

大好きな服をたたみながら、来年もこの服が着られるかなと思いつつ箱にしまうのはいつものことなのだが、今年はその思いがひときわ強かった。

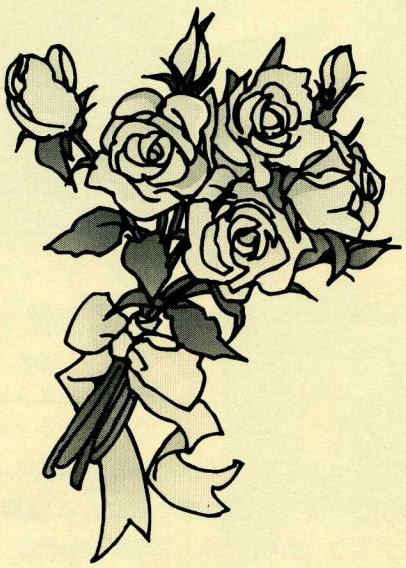
一つには私より年下の知人が病で亡くなったせいでもある。生前親御さんの相続がどのようになるか故人から相談を受けたことがあったが、逆縁となってしまった。ご両親の悲しみは深く、相続の相談をしていてもいつの間にか故人の話となってしまう。遺言はなかったが、幸い故人がパソコンに資産リストを残していたので、無事相続税の申告を済ますことができた。

私にも明日何が起こるかわからない。遺言は書いておいた方がいいことはわかっているが、人には勧めても正直本人はあまり気が進まない。兄弟しか相続人がいない身としては、「争続」を避ける意味でも、どうしてもらいたいのか意思表示が欠かせないだろう。残すほどの財産はないが、故人を見習ってせめて連絡先等のメモくらいは残しておこうと思う。

もう一つには、メタボの度合いが進んで、年々着るにはウェストがきつい洋服が増えていっているからでもある。ここ数年家事も家族任せ、運動もほとんどしたことのない私は、久しぶりにあった友から遠慮がちに「少し太った？」とよく聞かれる。思い立って５月連休中に近くの川べりを30分歩いた。３日坊主にならないよう、形から入ろうと、スニーカーとジーパン、綿シャツと一式をそろえたが、３日ならぬ２日歩いただけで挫折。朝起きが苦手な私は日中の暑さにこのごろは外へ出るのも億劫になり、散歩などは論外。益々好きな洋服が着られなくなる可能性が高まっている。

近所の友達が見かねて（?）ダイエットになるからと野菜作りに誘ってくれた。今トマトときゅうり、ナス、ピーマン、しし唐、オクラを２軒で作っている。植えた当座は水遣りで畑の畝の間をバランスよく歩くだけでも疲れたが、やっとなれた。今は一雨ごとに引く後引く後から草が生えてきて、草引きに追われているが、これもなかなか良い運動になる。

１日畑に行かないときゅうりが太くなりすぎる。気ぜわしいことだが、当分畑通いでダイエットして、来年はどの服も着られるようにしようと思った今年の衣替えであった。



新人紹介

カローラ・ヤプケ

ゾンタクラブの皆様へ

私の名前はカローラ・ヤプケで、大阪Ⅱゾンタクラブの新会員です。

私はドイツ人で、9歳のかわいい娘を持つシングル・マザーです。4月1日から帝人のグローバル人事室長をしています。

私のこれまでの経歴を少しお話します。

45年前に中央ドイツの小さな町に生まれて育ちました。その町の名前はハン・ミュンデンと言ってゲッティンゲンの近くです。ゲッティンゲンはグリム兄弟、ハインリヒ・ハイネ、ビスマルクのような多くの有名なドイツ人たちが学んだ都市です。高校卒業後、私はベルリンとイタリアのウルビノで政治学とイタリア語を勉強しました。

1990年にイタリアのパルマのドイツ語学校の校長として働き始めました。2年後ベルリンに戻りベルリン・ヘヒスト・プラントの人事課に就職しました。1997年にヘヒスト社からアメリカのノースカロライナ州ウィルミントンに人事部長として派遣されました。残念なことに私の職場はインドネシアの会社に売却されてしまいましたので、1998年にドイツのアウグスブルクに帰ってこなくてはなりませんでした。

2年後に娘のアメリーが生まれ、2001年にテイジン・モノフィラメントドイツの人事部長に任命されました。そして今年4月に大阪にやってきました。

社会に対するささやかな貢献として、数年前にガテマラの小さな女の子の援助を始めました。他人の面倒をみるということは社会的義務であることを私の娘に示したいのです。そういうわけで、ゾンタを知った時にはメンバーになりたいと思いました。ゾンタはチャリティと、働く女性たちのネットワーキングを結びつけており、これは私にとってすばらしい組み合わせだからです。

皆様といっしょに働けるのを楽しみにしております。

カローラ・ヤプケ

（原文は英語、坂本千代訳）

久岡前会長と

編集後記

ゾンタは学生時代のクラブ活動を思い出させます。ひとつの目標のもとに、みんな微妙に異なる動機で参加し、それぞれの個性が活動に生かされていました。すてきな先輩や気になる後輩がいました・・・。ヤプケさんの参加で少しだけ「国際的」になった大阪Ⅱゾンタクラブ、広報活動も国際化をめざします。

坂本　千代